
本当の恋

peach-pit

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

本当の恋

【Nコード】

N8635G

【作者名】

peach-pit

【あらすじ】

優美はある日後輩の光輝に告白された。光輝との出会いは14階建の屋上。優美になにが・・・？

01話

「好きです付き合ってください」

放課後

後輩からの告白。

「はい」

私はあの日から

後輩の光輝と

付き合うことになった。

「ね、優美。高宮ちゃんと
付き合ってるってほんと？？」

親友の亜矢^{あや}が

話しかけてきた。

嵩宮？？

あ・・光輝のこと？？

「うん」

「い・なあ！！嵩宮くんって学年01のモテ男じゃ〜ん」

「そうなの？？」

「そうだよ！！いいなあ優美」

まあたしかに

光輝かつこいいもんね。

「ねえ！！いつ嵩宮くんに出逢ったの？？」

「ん〜？？02年前かな」

「え?!何があつたの?」

私はあの日のことを

思い出しながら

亜矢に話した。

あの日・・・・・・02年前

私の下には

小さな車がたくさん

道路を走っている。

ありんこみたいな

人も歩道を

歩いている。

私はどこにいたって？？

・・・14階ビルの屋上

私なんか

生きてても意味なんかない。

親にも

友達にも

恋人にも見捨てられて・・。

私は今

01人ぼっち。

私を頼ってくれる人

信頼してくれる人なんて

どこにも・・

この世にはいない。

「私・・・なんのために生まれてきたの・・・??」

「おい!!!!!!」

背後から声が聞こえた。

振り返ってみると

背が高く

茶髪でチャラっぽい男が

息をきらしながら

背後に立っていた。

「なに・・・??」

「なにつて・・・お前落ちる気かよ!!」

「そうだけど??」

「なんでそんな簡単に死のうとするんだよ・・・!!」

「私なんか生きてる意味ないの・・・」

「ふざけんな!!!!!!」

そう言いながら

男は私に近づいてきた。

「近づかないで！！私に近づいたら落ちるから！！」

私がそう言つと男は足を止めた。

「意味とか関係ねーじゃん」

「え？？」

「お前が死ぬと悲しむ奴はいるよ」

「そんな人のいない・・・みんな私のことなんか信頼してないし信用なんかもしてない・・・」

「・・・俺は信じる」

その言葉を聞いた瞬間

私は目をまるくした。

「・・・へ・・・？？」

「俺はお前を信じる。だから死ぬなんて言つなよ」

「嘘でしょ・・・」

「嘘じゃねえ。俺を信じろよ」

嘘・・・。

私のことを信じる??

そんなの嘘よ・・・。

みんなそうだった。

【私は優美を信じてるから】

そう言ったあの娘も

私を裏切った。

親友だと思つてたのに。

「本当・・・なの・・・??」

「ああ」

私の瞳から

涙が溢れだした。

その時

男が近づいてきて

私を屋上の真ん中に

連れて行つた。

「・・・今まで・・・みんな私を・・・裏切つたの・・・。
みんな・・・信じてるつて・・・言つたのに・・・。
親も・・・友達も・・・恋人も・・・」

「何かしたのか・・・??」

「私は何もしてない!!!!・・・03年くらい前に
お姉ちゃんが・・・犯罪を犯したの・・・」

「・・・え?!」

「お姉ちゃん・・・彼氏の元カノを・・・毎日元カノから
いやがらせを受けてたらしくて・・・。それで・・・」

「・・・それとお前がなんの関係が??」

「私の名前優美っていうんだけど、お姉ちゃんの名前優那っていう

の。

元カノが最後に残したダイイングメッセージに

【YUU・・】って書いてあったの。それで警察は関わりのある人物から

私がお姉ちゃんにしぼったの。元カノと01番関わりがあるのは

お姉ちゃんだから警察はお姉ちゃんを怪しんだ。でもその日

お姉ちゃんは彼氏といたの。私は部屋にいて・・。証言者もないの。

それで・・私・・01回警察に連れて行かれちゃったの・・・。」

男は驚いた顔をして

黙っていた。

私はそんな顔を

気にしながら話を続けた。

「警察にたくさん聞かれた・・。私ほんとに部屋で雑誌読んでたの！！

運悪く親は出張で・・。元カノのことなんてお姉ちゃんにちよっぴり聞いただけで顔も知らなかった・・。

なのに警察は私を怪しんだ・・。私には元カノを殺しちゃう

理由なんかないのに・・。結局その事件は今でも分らないの。

でもこの事件ニュースとか雑誌にたくさん報道されちゃって・・。

私学校とかでも犯人にされちゃって・・。その話を親友とか

親とか恋人にしたの。最初はみんな信じてくれたの。でも・・最後には

私を裏切った・・・」

私は涙が止まらなかった。

この人も

どうせ私のことなんか

信じてくれないに決まってる・・・。

でも男は

私をぎゅっと抱きしめた。

「大変だったな・・・。お前は何もしてないんだろ??
・・・なら俺は信じる。だから01人で悩んだり、
死んだりしようとするなよ・・・」

こんなこと・・・

言ってくれたの初めて・・・。

私は抱きしめかえた。

「・・・うん。ありがとう」

02話

私達は

沈黙が続いた。

そんな時

やっと男が

口を開いた。

「俺の彼女さ、自殺・・・したんだ」

「・・・え?!」

「だから、もう自殺してほしくないんだ」

・・・だから私を

あんなに必死で

止めてくれたんだ・・・。

「そうだよね・・・。ごめんね」

「分かってくれればいいんだ。俺 髙宮光輝」

「私は前原優美」

「よろしくな」

「・・・そつかあ」

「・・・亜矢は・・・信じてくれるよね・・・??」

亜矢は黙り込んだ。

まさか・・・

亜矢も私のこと

信じてくれないの・・・??

「あたりまえでしょ・・・!!」

何年優美というと思ってるの?!!」

「ほんと??裏切らない?！」

「私を今まで優美を
裏切った奴と一緒にしないで」

亜矢は裏切らない。

よかった。。

「だよね。ごめんね！」

♪ピロリンロリン

「あ、もしかして嵩宮くんじゃない??」

私はめえるをチェックした。

予想通り光輝だった。

《今日逢える?》

「なんてなんて??」

亜矢が私の

携帯の画面に

顔を覗き込んできた。

「おお！！逢えるに決まってるでしょう??」

「う、うん」

なんか亜矢

すごいテンション高いなあ・・・。

《うん。いつ逢う?》

私は返事を送った。

「あゝあ、いいなあ！！らぶらぶで」

「そんなことないよ。亜矢好きな人いないの??」

そう聞いた瞬間

亜矢の頬が

ピンク色に染まった。

「言うの忘れてたけどいるんだよ」
「すごくカッコイイの〜!!」

「え。誰誰?」

「07組の酒本くん」

誰か知らないけど

亜矢が好きになる人は

昔からいい人ばかり。

だから酒本くんも

いい人なんだろうなあ・・・。

「あゝ!!こんな話してたら
逢いたくなっちゃった」

「んじゃあ逢いに行こ?」
「私もどんな人が見たいし!!」

「まぢく？？行こ」

私達は

るるん気分で

07組に向った。

階段をおりて

すぐの教室。

07組につくと

亜矢はひよこつと

窓から教室内を覗き込んだ。

「あ、いたあゝ酒本くゝん！！」

亜矢は

大きく手を振ると

茶色に染め

つんつんに整えた髪を

なびかせながら

酒本って人が

近づいてきた。

「あゝ吉永じゃん。
どしたの?? あれ、隣のやつは??」

「ちよつと通りかかっただけ
こつちの娘は私の親友の優美!」

そう聞いた

酒本って人は

私に目をやった。

「あ・・前原優美です」

「優美ちゃんね かゝわいい!!
俺は酒本悠馬 さかもとゆうま よろしくな!」

「よ、よろしく・・・」

可愛いなんて

今まで

言われたことないよ・・・。

「酒本くん優美ねらっちゃだめだよ？
優美にはかっっこいい彼氏がいるんだから」

「まちでえ???ざーんねん(<>)」

私達03人は

アドレス交換をして

それぞれのクラスに戻った。

クラスに戻ると

亜矢はにこにこしながら

携帯を眺めていた。

「あゝ!!ほんと酒本くんかっっこいい」

「そうだね」

「優美乗り換えちゃだめだよ?」

「わかってるよ!親友の好きな人
とろうなんて思わないよ!!」

「だよね〜!!」

亜矢

すごく可愛いよ。

恋をすると

女の子は変わるって

ホントなんだね。

♪ピロリロリン

「あ、嵩宮くんじゃない??」

「たぶん!」

めえるを

チエツクすると

光輝だった。

《今から》

「亜矢……。光輝が
今から逢わないかって・・」

「今から？？高宮くんも大胆だね。
いいじゃん！逢ってきなよ」

《いいよ。中庭で待ってる》

私は返事を送り

中庭に向った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8635g/>

本当の恋

2010年12月22日14時46分発行